

---

# ICT 活用の可能性

丸亀・飯山中 山下 裕史

---

国語科教育は、言葉を通じて生徒の「考える力」や「書く力」を育むことが目的だが、社会のデジタル化に伴い、教育現場でも ICT の活用が進んでいる。特に国語科に ICT を取り入れることについて、最初は戸惑いもあった。しかし、授業で実際に活用してみると、教材のデジタル化から生徒の自己表現まで、さまざまな可能性に気づくことができた。今回は、私が実際に ICT を授業で活用する中で感じた意義と効果を、いくつかの視点から述べたいと思う。

まず、ICT は教材や資料のデジタル化に非常に役立っている。従来は紙の資料集やワークシートに依存していたが、デジタル教材を導入することで、映像やウェブサイト、オンライン資料などを活用でき、授業の幅が広がった。例えば、古典文学の授業で平安時代の物語を学ぶ際、映像やイラストなどを交えた資料を見せると、作品の世界観を生徒がより深く感じ取り、興味を持って学びに向かう様子が見られた。

ICT はまた、生徒が主体的に学ぶ姿勢を促進する。例えば「ロイロノート」を活用し、各自が調べた内容を共有したり、感想をまとめたりする活動では、情報を探し出し、自分の言葉で表現する力が育まれている。ロイロノートを用いることで、個人の考えをカード形式で視覚的に整理しやすくなり、友達の見解を参考にしながら自分の考えをさらに深めていく様子が見られた。グループ活動でも、生徒同士がリアルタイムで意見を交換し、思考ツールを使って意見を分類・整理することで、思考の流れが可視化され、議論がより深まった。こうした活動を通じて、生徒の主体性や積極的な学びの姿勢が育まれていると感じた。

さらに、ICT は学びの振り返りにも有効だ。授業で取り上げた主な課題について、ロイロノ

ートで振り返りカードを作成し、感想や気づきを記録することで、生徒は自らの学びを客観的に見つめることができるようになった。私も生徒の記録を確認し、生徒から生まれた新たな疑問を次時の学習課題に生かすなど、双方向のやり取りが自然と生まれている。このようなリフレクションの過程を通じて、学びがより深まる貴重な機会となっている。

そして何より、ICT 活用によって表現活動の幅が広がった。ロイロノートのカードに画像や音声を挿入し、俳句や物語のイメージを視覚・聴覚的に表現するなど、プレゼンテーションツールとしても活用できる。映像やイラスト、音声で表現する「ビジュアル化」活動では、生徒が自分の感性を駆使し、五感を使って表現する楽しさを味わっている。このように、生徒が ICT を通じて言葉の世界を立体的に感じ、豊かな発想を持つきっかけになっている。また、評価方法も多様化した。ロイロノートのアンケート機能を使ったゲームモードや「タブドリ Live!」を活用することで、生徒の理解度を多角的・多面的に測り、即座にフィードバックを行えるようになった。今後は、デジタルポートフォリオを用いて、生徒一人ひとりの学びのプロセスを記録し、成長の過程を可視化することも可能だ。これにより、学期ごとの成長を一目で確認できるため、生徒の進捗や理解度に寄り添った個別最適な学びが実現できるのではないだろうか。

もちろん、ICT 活用には課題もある。設備の整備や教員のスキル向上は欠かせない。校内研修や外部講習を通じてスキルを磨くことで、教員自身もデジタルツールを柔軟に活用できるようになり、効率的な授業準備や指導が可能になる。ICT を導入することによって、教室や思考の壁を取り払い、学びの可能性が無限に拡張していることを実感している。アナログならではのよさも大切にしつつ、言葉の力や作品の世界に多角的に触れ、豊かな発想を持つ生徒が育つことを願い、生徒がより深く「ことば」と向き合える授業を目指していきたい。